

## 編集後記

夏休み・お盆シーズンの影響もあって、新型コロナウィルス感染者は全国多いときで連日20万人を突破し、爆発的な増加傾向を呈していました。ここにきてようやく、感染者の全数把握制度の見直しと、感染症分類を2類から5類に引き下げる事案がまともに審議されるようになり、前者に関しては全数ではなく、重症患者及び高齢者を含むハイリスクケースのみ報告義務を課すという方向で全国自治体と調整に入り、早ければ9月から実施という事になりそうです。感染拡大が続く中、行動制限をかけずに報告義務はそのままという矛盾した現状に疲弊しきっていた医療従事者にとっては朗報と言えますが、まだ充分とは言えません。一刻も早くさらなる規制緩和の実施を望みたいところです。

今月の「誌上ギャラリー」は相良先生よりお寄せいただいた“彼岸花”。墓参りを連想して何となく物悲しく寂しいイメージもある花ですが、これだけ群生していると圧巻ですね。燃えるような赤が目に焼きついてくるようです。

「論説と話題」では第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、第53回九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会の模様をそれぞれの担当の皆様方からご報告いただきました。

「学術」は2題です。鹿児島医療センターの今林先生からは重症患者に対するベッドサイドでのEDチューブ挿入に際し、ポータブルX線撮影装置を自ら工夫して操作することで確実性に難のある盲目的留置法を、より確実な透視法に近い方法へなし得た症例をご報告いただきました。また7月14日の内科医会7月例会で済生会熊本病院脳卒中センター特別顧問の橋本先生から“新たな片頭痛治療の時代到来 - CGRP関連抗体

とラスマジタンの登場時代 - ”の演題でご講演いただいた内容を掲載しております。片頭痛の病態や予防といった基礎的なお話から最新の治療薬の知見まで、大変有益な内容となっています。是非ご一読ください。

「医師会病院だより」では緩和ケア科のご紹介と、法改正に伴う放射線被ばく管理について、その概要をご紹介いただきました。

「隨筆・その他」では古庄先生から【眼科・病院】と題してハンガリーとウルグアイの5点の切手を供覧していただきました。リレー隨筆は鹿児島大学病院の下園先生よりお寄せいただいた“鹿児島県肝属郡肝付町は一反木綿の伝承の地です！”。私も医局在籍中は出張で肝付町の病院に勤務していましたため、内之浦のロケットセンターはよく知っていましたが、この話は初耳でした。知名度の高いメジャーと言っていい妖怪ですので、確かに町興しのネタにはうってつけですね。田舎云々と言いながらも筆者の故郷への深い愛が感じられます。

「鹿市医郷壇」9号の題吟は『歯痒い（はがい）』でした。捻りの効いた作品ばかりで、いつも楽しく拝見しております。会員の先生方も是非挑戦してみて下さい。

梅雨が駆け足で過ぎたと思えば、東北・北陸を中心とした豪雨災害の繰り返し。晴れたと思えば記録的な猛暑の毎日。止まらない物価の上昇。危惧されていた電力不足も各方面で節電を心掛けたおかげで何とかなりましたが、今年の夏はいろいろな面で厳しかったと感じます。ようやく朝夕に秋を感じる季節にはなってきましたが、本当の夏の疲れが出るのは今からです。患者さんの事はもちろんですが、日常診療に加え、コロナ感染対応にお疲れ気味の先生方、自身の体調管理も忘れずに行いましょう。

(編集委員 寺口 博幸)